

平成28年度 沼田市地域公共交通会議会議録

- 1 日 時 平成28年12月22日(木) 13時55分～14時30分
- 2 場 所 沼田市役所北庁舎 4F 中会議室
- 3 出席者 五十嵐会長 外委員11名(別紙のとおり)
- 4 会議の概要

傍聴者なし。会議の結果は、沼田市公式ホームページ上で公開することについて確認。

定足数については委員14名中、12名出席であり、会議は成立した。

(1) 協議事項

- 1) 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係わる事業評価について

①内 容(「資料」1～11ページ)

資料1ページから11ページまでが関東運輸局から示された様式及び参考資料として作成したもの。1ページについては、①が運行事業者である関越交通株式会社、②の事業概要については、対象となる路線名や運行日数などを記載してあるのでご覧いただきたい。

③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況については、今回が初めての事業評価のため、該当無しと記載。

④の事業実施の適切性では、事業が適切に実施されたかにより、A、B、Cの3段階で評価を行う。事業が計画に位置づけられたとおりに適切に実施された場合A、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されていない点があった場合B、事業が計画に位置づけられたとおりに実施されなかった場合Cとなり、②で示した事業概要は、計画のとおりのため、Aとした。

⑤目標・効果達成状況についても、④と同様に評価を行う。目標については、乗車人数と収支割合を、効果については、現在徒歩で通院している交通弱者への交通手段を確保することにより、医療ニーズへの充足を図ると沼須町から市街地への交通手段を確保することにより、日常生活の利便性の向上を図るを挙げている。事業実施の結果、目標については、掲げた数値を下回ってしまったが、これは今までバスを利用していた人やバス通院を希望していた人が、別の通院手段に移ってしまったことが考えられ、目標設定自体が過大であり、適切ではなかった。バス停別の乗降調査から、病院の最寄りバス停に乗降が集中しており、本事業による、医療ニーズへの充足を図るという効果は認められた。また、車両の減価償却費補助等については、計画どおり達成した。以上を総合してBとした。

⑥事業の今後の改善点について、バス停別の乗降調査により、起終点及び病院の最寄りのバス停に乗降が集中しており、通院が主な利用目的であることがわかる。新設したばかりの路線であり、この路線無しでは通院が困難になる利用者もいることから、運行を継続し、路線の定着を図りつつ、実績に基づく利用者数と路線の維持を目標として掲げたい。

また、一層の利用促進を図るため、主な利用目的地である病院に今年度作成予定のチラシ及び時刻表を配付し、通院者に広報することで新たな利用者獲得につなげることを掲げた。

次第2ページの事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について、本事業は地域医療にとって大きな役割を果たしていた、利根中央病院が公共交通空白地域に移転することになり、高齢者など交通弱者の移動手段を確保することを目的としている。また、本地域では鎌田線等の営業路線が、地域間幹線として運行していることから、委託路線とあわせて利用しやすいネットワーク形成を図ることも記載した。

次第3ページから11ページは事業及び事業評価のポンチ絵。資料に記載してある沼田市の概要では、高齢化率30.8%であり、内閣府が発表している平成28年版高齢社会白書によれば、全国の高齢化率が26.7%のため、全国平均より沼田市は高齢化が進んでいると言える。このことから高齢者の通院手段の確保は重要である。協議会の開催状況については、前年度の計画による事業評価のため、平成27年5月26日と本日開催の2回を記載。アピールポイントとしては、沼須線は主な発着点である沼田駅に加え、経路の途中にある沼田市保健福祉センターを発着点とする便を加えることで、出来るだけ多くの便を運行できるようにしているところ。また、この2箇所は、他路線の多くが経由するため、乗り継ぎにより利根中央病院に向かえるようになっている。次第6ページからは参考資料のため、各自ご覧いただきたい。

【1）平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係わる事業評価について質疑応答】

委員：⑤目標・効果達成状況についてで、今までバスを利用していた人やバス通院を希望していた人が、別の通院手段に移ってしまったことが考えられると説明があったが、具体的にどの様な移動手段に移ったのか把握しているか。

事務局：具体的な移動手段については、把握していない。

委員：利根中央病院は、組合員の出資により運営を行っている。事務局の補足説明として、病院で送迎（通院支援）を行っているため、それによる影響もあるのでは。市内をかなりの台数と頻度で走っている。

委員：通院支援を行っている台数は把握しているか。

事務局：把握していない。

事務局：利根中央病院移転前から、通院支援は行われていた。沼須線を運行するにあたり、病院とも打合せを重ねた。沼須線は、平日のみの運行であり、病院としては土曜日も開業しているため、土曜日にも運行できないかと相談を受けた。しかし、他のバス路線の多くも平日のみの運行であり、仮に沼須線だけ土曜日に運行しても、乗り継ぎ等の問題があるため、平日のみの運行とした。病院が行っている通院支援については、平日も行っているため、土曜日に手厚く支援をしてもらうことなどを打合せの中で要望してきた。具体的な通院支援利用者数などは、把握していないが、利用者数の把握について、今後検討したい。

委員：次第9ページのバス停別の乗降調査について、他のバス停からの乗降も見られるが、ほとんどが沼田駅と沼田市保健福祉センター前で乗車し、利根中央病院で降車していると理解できる。沼田市保健福祉センター前の乗降が多いのは、他の路線との中継点だからか。

事務局：それもあられると思われる。それに加え、沼田市保健福祉センター前発着の便もあるためと考えられる。

委員：次第10ページのバス停別の乗降調査について、多くの人が、病院の行き帰りで利用していると思われるが、利根中央病院で多くが乗車しており、沼田市保健福祉センター前と国立病院で降車する人がばらけているが、この理由はわかるか。

事務局：沼須線は、国立病院の入口まで乗り入れている路線であり、沼須地区から国立病院へ通院している方がいると思われる。

委員：先ほど土曜日の運行の話もあったが、運行しても問題はないのか。

事務局：土曜日の運行について、補足させていただく。実は利根中央病院で通院支援の他に、土曜日にシャトルバスを走らせている。利用者数を見る限り、今すぐに沼須線の土曜日運行を開始する状況ないと判断している。

2) その他

協議事項とは別になってしまうが、地域公共交通会議は今後、新年度の計画策定と事業評価を行うために同じような時期に継続して開催する予定。当面の予定では、来年度の5月に会議を招集するため、ご協力をお願いしたい。

〈協議結果〉

- 1) 平成28年度地域内フィーダー系統確保維持計画に係わる事業評価について、質疑応答の後、諮った結果、異議なく原案のとおり承認された。